

人体構造学Ⅰ		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311101

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の構造学（解剖学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、骨格系並びに筋系といった運動器の構造を各部位別に学ぶことから始め、その後は、中枢神経および末梢神経に分けて神経系を学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な部位についてはテキストの解剖図をスケッチし、その構造学的特徴を記入した「人体構造学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、人体構造学概説（細胞、組織、器官）	9. 神経系①（神経組織の基本構造）
2. 運動器①（骨組織と筋組織の基本構造）	10. 神経系②（脳）
3. 運動器②（頭部・体幹の骨と関節）	11. 神経系③（脊髄）
4. 運動器③（頭部・体幹の筋）	12. 神経系④（脳神経）
5. 運動器④（上肢の骨と関節）	13. 神経系⑤（脊髄神経）
6. 運動器⑤（上肢の筋）	14. 神経系⑥（自律神経）
7. 運動器⑥（下肢の骨と関節）	15. まとめ
8. 運動器⑦（下肢の筋）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体構造学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。
講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体構造学Ⅱ		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311102

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の構造学（解剖学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、体性感覚並びに特殊感覚に関わる感覚器の構造を学ぶことから始め、その後は、循環器、消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器と順次内臓の構造について学習する。また、単元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な部位についてはテキストの解剖図をスケッチし、その構造学的特徴を記入した「人体構造学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、感覚器①（外皮、味覚器、嗅覚器）	9. 消化器③（消化腺と付属器官）
2. 感覚器②（視覚器）	10. 呼吸器（気道と肺）
3. 感覚器③（聴覚器と平衡覚器）	11. 泌尿器（腎臓と尿路）
4. 循環器①（心臓）	12. 生殖器①（男性生殖器）
5. 循環器②（動脈系）	13. 生殖器②（女性生殖器）
6. 循環器③（静脈系とリンパ系）	14. 内分泌器（下垂体、甲状腺、副腎）
7. 消化器①（上部消化管）	15. まとめ
8. 消化器②（下部消化管）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体構造学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約 30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約 70%程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体機能学Ⅰ		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12311103 12531205

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の機能学（生理学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、生理学の基本を学ぶことから始め、その後は、筋の生理、神経および運動の機能、感覚の機能、内分泌・生殖・体液の機能について学習する。また、單元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な人体の働きについてはその機能を図示し、生理学的特徴を記入した「人体機能学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、生理学とは①（細胞の構造と機能、組織・器官と生体の機能系）	9. 感覚の生理①（感覚の一般的な特性、特殊感覚）
2. 生理学とは②（生体の恒常性と統合機能、体液の区分と組成）	10. 感覚の生理②（体性感覚、内臓感覚、痛覚）
3. 筋の生理①（骨格筋）	11. 内分泌（内分泌腺とホルモン、それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき、ホルモンによる内部環境の恒常性維持）
4. 筋の生理②（心筋、平滑筋）	12. 生殖（性分化、男性生殖器、女性生殖器、妊娠と分娩）
5. 神経の生理①（神経信号の伝達、神経系の構成）	13. 血液①（血液の成分と組成、止血）
6. 神経の生理②（脳の高次機能、内臓機能の調節）	14. 血液②（血液型、免疫）
7. 運動の生理①（運動の調節、運動神経と運動単位、脊髄による反射とその調節）	15. まとめ
8. 運動の生理②（脳幹による運動調節、高次運動機能）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体機能学レポート」を作成した上で、それを基に単元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、生理学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能と病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30％程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70％程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』、南江堂、2020年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体機能学Ⅱ		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12311104 12531206

1. 授業のねらい・概要

医療専門職を志す者にとって、人体の機能学（生理学）は最も基盤となる学問の一つである。この授業では、骨の生理を学ぶことから始め、その後は、循環機能、呼吸・排泄の仕組み、栄養と代謝、消化・吸収、体温調節および発育期～高齢期並びに競技者の生理学的特徴について学習する。また、單元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な人体の働きについてはその機能を図示し、生理学的特徴を記入した「人体機能学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、骨の生理（骨の構造、骨の成長） 2. 循環①（心臓） 3. 循環②（血管、リンパ系、循環調節） 4. 呼吸の生理①（呼吸器の構造、換気） 5. 呼吸の生理②（ガス交換と運搬、呼吸周期の調節） 6. 尿の生成と排泄①（腎臓の構造と機能、尿の生成） 7. 尿の生成と排泄②（腎血流量、排尿、腎臓による体液の調節） 8. 栄養と代謝①（生体に必要な栄養素、エネルギー代謝） 9. 栄養と代謝②（栄養素の代謝、食物と栄養） 10. 消化と吸収①（消化器系の構成とはたらき）	11. 消化と吸収②（食物の消化と吸収、各栄養素の消化と吸収） 12. 体温とその調節（体温、熱産生、熱放散、体温調節、気候順化、発熱とうつ熱） 13. 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化（成長に伴うからだや運動能力の発達、競技者の生理学的特徴・変化） 14. 高齢者の生理学的特徴・変化（細胞・組織の加齢現象、高齢者の生理的特徴、運動と加齢） 15. まとめ
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体機能学レポート」を作成した上で、それを基に單元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、生理学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能と病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』、南江堂、2020年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動学 I		准教授 牛島 詳力	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12312101 12531105

1. 授業のねらい・概要

ここでの「運動学」とは人体を対象とした身体運動を主としている。人間が体を動かす際、骨が単独で作用するわけではない、必ず筋や神経などの機関が連携してひとつの動作が生まれる。そのことを理解したうえで、人間の身体に関わることを生業とするのであれば「身体運動」を学ぶことは必然的ではないかと考える。

本授業では解剖生理学を基礎とした上で、それぞれがどのように身体と関わっていくかをより深く学習し、スポーツの指導に従事する者あるいは医療従事者としての基本的知識を身につける。

2. 授業の進め方

授業では配布資料と板書を活用する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 運動学とは、	9. 膝関節の構造・機能と運動
2. 関節運動の表し方、関節と運動の力学	10. 足部・足関節の構造・機能と運動
3. 関節運動の面と軸・関節の分類、構造と機能	11. 歩行・異常歩行 運動制御（反射と随意運動）
4. 筋肉の構造と機能（レポート課題概要発表）	12. スポーツ動作の分析への応用（1：重力・地面反力）
5. 脊柱・体幹の構造・機能と運動、姿勢	13. スポーツ動作の分析への応用（2：筋の収縮形態）
6. 上肢帯・肩関節の構造・機能と運動	14. 運動学習・運動発達・反射・運動感覚
7. 肘関節と前腕の構造・機能と運動	15. 運動機能の構造と機能（レポート課題提出）
8. 骨盤・股関節の構造・機能と運動	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

人体構造学 I で学んだ運動器について（骨・筋・関節）の復習と、事前に配布した資料に目を通しておくこと（およそ 30 分間）。解剖学、特に筋学（筋の起始、停止部の名称、支配神経、作用など）を復習しておく。「人体の構造」と同時進行となるが、それらの知識が既にあるものとして授業を進める。またその確認のために筋学の小テストを計 10 回行う。

小テスト出題範囲：① 頭・頸部の筋 ② 胸郭・腰部の筋 ③ 上肢帯の筋 ④ 肩関節の筋 ⑤ 肘関節の筋 ⑥ 手の筋（1）⑦ 手の筋（2）⑧ 股関節の筋 ⑨ 膝関節の筋 ⑩ 足関節の筋、必ずしも授業計画の日程「第何回」とは一致しない、そのつど告知する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

「身体運動」の必要性を確認する。

「運動学」を通じて解剖学ならびに生理学の理解を深める。

医療従事者としての基礎的な知識を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

授業中の態度、提出物や定期試験での成績を総合して評価を行う。

定期試験（40%）＋小テスト合計点（30%）＋平常点*（10%）＋レポート（20%）＝総合（100%）

* 平常点（授業参加点）：授業での発言、質問など、教員の主観も含まれる。

追再試験について：何らかの理由で定期試験が受けられなかった者に対して追試験を行うことがある、しかし成績不良者に対する再試験は行わない。

8. テキスト・参考文献

テキスト： Thompson, CW Floyd, RT「身体運動の機能解剖」医道の日本, 2002 年

参考文献：Oatis, C 「オーチスのキネシオロジー 身体運動の力学と病態力学」ラウンドフラット, 2012 年

Neumann, D「筋骨格系のキネシオロジー」医歯薬出版, 2018 年

その他, 授業内容に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は, 定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は, 接骨院やプロスポーツチームにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

生理・心理機能測定法		実習	教授 大森 肇 教授 竹内 成生
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11301102 12312102 13312101

1. 授業のねらい・概要

スポーツを科学的に検証するためには、生理・心理の変化とパフォーマンスの関係性を捉える必要がある。一般に生理機能や心理機能の測定は難しいと考えられがちだが、測定の理論的背景を理解すれば、実際には明解かつ平易であることが理解できる。

本講義ではスポーツ科学研究、生理学研究、心理学研究といった複数の研究分野で多用される指標を題材として取り上げ、テーマごとに理論的背景、研究計画、測定方法、解析方法、データの見方までを取り扱う。一連の学習を通じて、科学的なデータの扱いや見方の基礎を習得することを目標とする。

2. 授業の進め方

教員2名による講義と実習形式によって進められる。講義ではパワーポイント、スライド、プリント、板書、視聴覚教材を適宜使用し、実習では学生が互いに実験者と被験者を体験する。また、各自データ処理を体験し、データの見方や結果に関する討議も行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス：本講義の概要と評価法（両教員）	9. 生理学的研究の概略（大森：講義）
2. 心理学的研究の概略（竹内：講義）	10. 生理学的手法（大森：講義と実習）
3. 生理学的手法（竹内：講義と実習）	11. 生理学的計測（大森：実験）
4. 心理学的計測（竹内：実験・調査）	12. 生理学的解析①（大森：実習 [データ整理]）
5. 生理学的解析①（竹内：実習 [データ整理]）	13. 生理学的解析②（大森：実習 [データ解析]）
6. 生理学的解析②（竹内：実習 [データ解析]）	14. 生理学的考察（大森：講義と実習）
7. 生理学的考察（竹内：講義と実習）	15. まとめとフィードバック（大森：生理学領域）
8. まとめとフィードバック（竹内：心理学領域）	※実際の教員指導順序等の詳細は改めて告知する

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各講義前には予めテーマについて調べておくこと（1時間）。また、テーマ毎の簡単なレポートを必ず教員の指定する方法と期間に提出する必要がある（1時間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出後、質疑および要点等の解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

各テーマに関する教授と実際の実験を通じて、科学的なデータの扱いや見方の基礎を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業態度（20%）、積極性（30%）、各回の課題とレポート（50%）を基本として、総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

特に指定しない。参考図書は必要があれば授業中に適宜紹介し、プリントを配布することがある。

9. 受講上の留意事項

本講義では生理学・心理学的測定と解析をおこなうことから、測定機器を取り扱うことがある。測定機器は精密機械で

あること，ならびに人を対象として機器を操作することから，慎重かつ真面目な態度で受講すること。本講義を通じて，人間の生理機能と心理機能への理解とその面白さを体験してほしい。

本講義は夏期集中講義を予定しており，各自が実際に測定体験をすることが重要かつ評価対象ともなるため，前期当初のガイダンス夏季集中講義期間等の説明を実施する。なお，履修希望者が定員を超えた場合には抽選となる可能性があるため，希望者は必ず参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。竹内は障害を対象とした研究所における経験を踏まえて指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体構造学実習		実習	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311201

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が診察を行う際の基本となる方法には、「視診」「問診」「触診」の3つがあり、そのうちこの授業では「触診」に関する知識と技術を学ぶ。すでに人体構造学で学んだ知識を基として体表面より皮下にある運動器（骨、筋など）の情報を知り、臨床上の診察に活かせる基礎的な触診技術が習得できるよう実習形式の授業を実施する。

2. 授業の進め方

四肢の主要な関節（肩関節、肘関節、手関節、股関節、膝関節、足関節）の解剖学的特徴を解説し、さらにその周囲でランドマークとなる部位の触診ポイントについては学生同士が2人1組のペアとなり反復練習を実施しながら実習を進めていく。また、毎回の授業終了後には「触診実習レポート」を作成し、次の授業開始時の提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、触診法の総論	9. 中間試験
2. 肩関節・上腕部①（鎖骨）	10. 股関節・大腿部（骨盤骨および大腿骨近位端）
3. 肩関節・上腕部②（上腕骨近位端）	11. 膝関節・下腿部①（大腿骨遠位端）
4. 肩関節・上腕部③（肩甲骨）	12. 膝関節・下腿部②（脛骨および腓骨近位端）
5. 肘関節・前腕部①（上腕骨遠位端）	13. 足関節・足部①（脛骨および腓骨遠位端）
6. 肘関節・前腕部②（橈骨および尺骨近位端）	14. 足関節・足部②（足根骨および足趾骨）
7. 手関節・手部①（橈骨および尺骨遠位端）	15. まとめ
8. 手関節・手部②（手根骨および手指骨）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

互いの解剖学的知識と触診技術を高めるために、学生同士が協力しあって「触診実習レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解を得ると同時に、運動器における触診法の基礎的技術を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約30%程度）並びに定期試験（中間試験、期末試験）の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『解剖学 第2版』、医歯薬出版、2008年
 竹内義亨、大橋淳、上村英記 著、『カラー写真で学ぶ 四肢関節の触診法』、医歯薬出版、2007年
 その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

人体機能学実習		実習	教授 西川 彰
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311202

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が実施する運動器の評価法には、「関節可動域」「徒手筋力」「四肢計測」「徒手検査法」などがあり、そのうちこの授業では「関節可動域」と「徒手筋力」に関する知識と測定技術を学ぶ。それらの測定から得られたデータと運動能力（投球速度・キック速度、ジャンプ力、バランス能力、アジリティ能力など）との関連性を分析し、臨床上の治療に活かせる基礎的な身体機能の評価法が習得できるよう実習形式の授業を実施する。

2. 授業の進め方

関節可動域、徒手筋力、運動能力それぞれの測定方法を説明した後に、各グループ（4～5人／グループ）に分かれてデータ測定を進めていく。また、得られたデータはPC（Microsoft Excel）に入力し分析を行った上で、「生理学実習レポート」を作成し、次の授業開始時の提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、生理学的データの基本的分析方法	9. 筋力増強トレーニングと徒手筋力の関係
2. 関節可動域の測定①（上肢）	10. 運動能力の測定①（投球速度・キック速度）
3. 関節可動域の測定②（下肢）	11. 運動能力の測定②（ジャンプ力）
4. 関節可動域の分析	12. 運動能力の測定③（バランス能力）
5. ストレッチングと関節可動域の関係	13. 運動能力の測定④（アジリティ能力）
6. 徒手筋力の測定①（上肢）	14. 運動能力の分析
7. 徒手筋力の測定②（下肢）	15. まとめ
8. 徒手筋力の分析	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

互いの生理学的知識と測定技術、分析能力を高めるために、学生同士が協力しあって「生理学実習レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、生理学的な知識をただ暗記するだけでなく、その機能と運動能力との関連性などの統合的な理解を得ると同時に、運動器の測定データを運動能力の向上に役立てる技術の習得を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約30％程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70％程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『生理学 改訂第4版』、南江堂、2020年
大橋敦子 監修／鍵谷方子、金澤佑治ら 著、『生理学実習 NAVI 第3版』、医歯薬出版、2023年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

発育発達論		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コース専門基礎科目 柔道整復師コース教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 救急救命士コース教職科目	科目ナンバリング	11322205 11532209 12311203 12532209 13220210 13532209

1. 授業のねらい・概要

発達とは、成長に伴って人体に有する組織や器官が変化し、それらの諸機能が発現する過程をいう。スポーツに関わる専門職を志す者にとって、各発達期における行動様式や精神活動の特徴を把握することは、障害予防の観点から運動指導の在り方を考える上で大変重要である。この授業では、人間発達学の概念を学ぶことから始め、さらに代表的な発達理論に触れた上で、各発達期における身体的・生理的・運動的機能の発達を中心に学習する。さらに、各発達期における代表的な問題点と対応方法（特にスポーツとの関連性）についても理解を深める。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、授業内で説明した重要語句の意味やそれらの関連性をまとめた「発育発達論レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、人間発達学の概念（発達に関する用語、発達期の区分、発達の原則）	8. 学童期の発達①（身体の変化、運動機能の変化）
2. 発達理論（歴史的変遷、エリクソンのライフサイクル理論、ピアジェの発生的認知理論）	9. 学童期の発達②（子どものロコモティブシンドローム）
3. 新生児期の発達（健康状態の指標、測定分類、ハイリスク要因）	10. 成長期スポーツ障害①（成長期の骨への障害、投球障害）
4. 乳児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：原始反射）	11. 成長期スポーツ障害②（ランニング障害、女性アスリートと骨障害）
5. 乳児期の発達②（運動機能の発達：姿勢反射、平衡反応）	12. 高齢期の加齢変化①（フレイルとロコモティブシンドローム）
6. 幼児期の発達①（身体的発達、運動機能の発達：歩行）	13. 高齢期の加齢変化②（サルコペニア）
7. 幼児期の発達②（運動機能の発達：上肢機能）	14. 障害（身体障害、精神障害、知的障害、発達障害）
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「発育発達論レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については模範解答例を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、各発達期における発育発達の特徴をただ暗記するだけでなく、その知識を用いて運動指導に役立てることができるよう統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約 30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約 70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時には配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ医学		講義	教授 大森 肇	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門基礎分野科目 柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング	13321201 12311204

1. 授業のねらい・概要

スポーツ医学の応用性は幅広い。本授業では、その中でも生活習慣病等の予防・治療およびスポーツパフォーマンス向上の観点からスポーツ医学における諸問題に言及し、理解を深めることをねらいとする。

2. 授業の進め方

パワーポイントによるプレゼンテーション、配布資料、板書等により授業を展開する。

3. 授業計画

1. ガイダンス	10. 運動に伴う疲労の生理的合目的性
2. スポーツ医学とは何か	11. 長時間の高強度間欠的運動に伴う中枢疲労とそのメカニズム
3. 本授業におけるスポーツ医学の観点（疾病の予防・治療，スポーツパフォーマンスの向上）	12. 長時間走行時の筋痛・筋損傷・酸化ストレスの増加
4. 体力測定・健康・運動の関係	13. 長時間走行時の筋損傷とパフォーマンスの関係
5. 健康の維持・増進と運動処方	14. レジスタンストレーニングに伴う筋痛・筋損傷に及ぼす栄養摂取の効果
6. 生活習慣病	15. まとめ
7. 生活習慣病と運動療法	
8. 適度な運動による生理的・心理的ストレス軽減効果	
9. 加齢による認知機能の低下とストレスに及ぼす軽運動介入の効果	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各テーマについて予習し、理解のための基盤を作っておくこと（30分）。復習時に講義内容を改めて整理し、理解が不十分な部分は自ら調べを深め、疑問点を次のショートレポートで質問できるようにまとめておくこと（30分）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭において、前回のショートレポートで出された質問に答えることでフィードバックする。また、定期試験後に全体講評を掲示または一斉メールにてフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

基本的な身体構造・機能を理解し、生活習慣病等の予防・治療およびスポーツパフォーマンス向上の観点からスポーツ医学における諸問題に触れ、理解を深めることを目標にする。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（70%）および受講態度（30%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

私語、水分補給以外の飲食、授業内容に関する検索以外のスマホ・PC等の使用、居眠りの4項目を禁止する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

レジスタンストレーニングとコンディショニング		実習	教授 柳澤 修	
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコースの選択必修科目、柔道整復師コースの専門基礎科目、救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11301201 12312201 13220211

1. 授業のねらい・概要

競技力を向上させるためには、筋腱複合体の機能を高めることが重要である。加えて、試合時に自身のパフォーマンスを最適な状態にするためには、身体のコンディショニングづくりが必要不可欠である。そこで本授業では、講義と実習を通じて、競技力向上に必要なレジスタンストレーニングおよびコンディショニング方法の基礎的知識を身につけることを目指す。

2. 授業の進め方

レジスタンストレーニングやコンディショニングに関する理論解説と実技を中心とした授業を行う。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. コアトレーニングとは
2. 身体の構造と機能	10. バランスボールトレーニングの実践
3. トレーニング科学の概論	11. プライオメトリクスとは
4. レジスタンストレーニングの理論	12. プライオメトリクスの実践
5. レジスタンストレーニングの実践（構造的エクササイズ）	13. 自重トレーニング
6. レジスタンストレーニングの実践（補助的エクササイズ）	14. コンディショニングとは
7. 持久性トレーニングの理論	15. コンディショニングの実践
8. 持久性トレーニングの実践	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考図書により、トレーニングする筋群の名称・機能について理解および把握しておく（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポートに対して、その都度改善点を口頭および模範実技により説明する。

6. 授業における学修の到達目標

レジスタンストレーニングやコンディショニングに関する基礎知識を習得し、指導する選手のみならず自身のパフォーマンス向上にもつながる実践能力を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

授業内レポート（30%）と期末レポート（70%）にて評価する。成績評価にあたっては、授業回数の2/3以上の出席を前提とする。

8. テキスト・参考文献

NSCA ジャパン ストレngths&コンディショニング エクササイズ・バイブル、実業之日本社

9. 受講上の留意事項

実際に自分自身でトレーニングの習慣をもつことが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、国内トップアスリートを対象とした研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツ栄養学		講義	非常勤講師 田口 郁美
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの選択必修科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	11321203 12312202 13311103

1. 授業のねらい・概要

運動と食事・栄養との関係，からだづくり，コンディションの維持，競技力向上のための栄養摂取について科学的理論に基づいた知識や食事のポイントを学ぶ。栄養素の体内代謝及び生理機能について理解を深め，アスリートの種目特性，年齢，性別，体調などを考慮した食事，栄養障害と食事対策，トレーニング期や試合期などの期分けによる食生活のあり方，食事管理などについて学ぶ。

2. 授業の進め方

配布資料を中心に，課題提出を含めて理解の程度を確認しながら講義を進める。

3. 授業計画

1. 講義概要説明	9. 目的別の食事 持久力と食事
2. スポーツと栄養 五大栄養素の役割	10. 時期，目的別区分と栄養・食事（合宿時）
3. 活動時の栄養素等摂取量	11. 時期，目的別区分と栄養・食事（試合期）
4. アスリートの栄養アセスメント	12. アスリートに多くみられる栄養障害
5. トレーニングと食事	13. 栄養補助食品(サプリメント)について
6. スポーツをする人の基本的な食事	14. 水分補給について
7. アスリートの栄養摂取と食生活	15. まとめ
8. 目的別の食事 からだ作り・減量	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

次回授業までに，参考文献，配布資料などによる予習・復習をして疑問点などを明確にしておく。

毎回1時間以上の準備学習（予習・復習）をして受講すること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後，解答などを掲示板に掲示する。課題レポートの講評は講義の中で行う。

6. 授業における学修の到達目標

健康の維持・増進，からだづくり，コンディション維持，競技力向上のための食事など科学的理論に基づいた知識を習得するとともに，競技力向上の支えとなる食事の重要性を認識し，食事管理，栄養管理を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

試験や提出レポートの結果（70%），授業や課題への取り組み（30%）によって総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

配付資料中心。

参考文献：公益財団法人 日本スポーツ協会 リファレンスブック

その他，必要に応じて講義の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

毎日の食事が心身の健康と密接に関係することを認識し，自らの食生活を充実させるよう努めること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動学Ⅱ		講義	非常勤講師 西川 晃子
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12311401

1. 授業のねらい・概要

ここでの「運動学」とは人体を対象とした身体運動を主としている。人間が体を動かす際、骨が単独で作用するわけではない、必ず筋や神経などの機関が連携してひとつの動作が生まれる。そのことを理解したうえで、人間の身体に関わることを生業とするのであれば「身体運動」を学ぶことは必然的ではないかと考える。

本授業では解剖生理学を基礎とした上で、それぞれがどのように身体と関わっていくかをより深く学習し、医療従事者としての基本的知識を身につけていく。

2. 授業の進め方

授業では配布資料と板書を活用する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 運動の表し方 2. 四肢と体幹の運動・上肢 3. 四肢と体幹の運動・上肢と下肢 4. 四肢と体幹の運動・下肢 5. 四肢と体幹の運動・体幹とその他 6. 姿勢 7. 歩行 8. 異常歩行	9. 運動発達・反射 10. 運動発達・全身と歩行、上肢 11. 運動学習 12. 身体運動と力学 13. 反射と随意運動 14. 運動機能の構造と機能 15. 運動感覚
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料に目を通し、わからない単語があれば事前に調べておくこと（およそ 30 分間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

「身体運動」の必要性を確認する。

「運動学」を通じて解剖生理学の理解を深める。

医療従事者としての基礎的な知識ならびに国家試験に対応した知識を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

（社）全国柔道整復学校協会 監修、『運動学 改訂第3版』，医歯薬出版，2012 年
その他，授業内容に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

授業開始 5 分前には着席しておくこと。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

整形外科 I		講義	客員教授 可知 芳則
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目 柔道整復師コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321201 13361204

1. 授業のねらい・概要

整形外科で治療の対象となる疾患を念頭に置いて、運動器の構造・機能についての理解を深めると同時に教養としての整形外科概論を修得する。

2. 授業の進め方

4月15日、4月22日、5月13日、5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日に授業を行う。

3. 授業計画

1. 運動器の解剖 ①骨・関節 2. 運動器の解剖 ②筋・神経 3. 体表解剖とその見方 4. 運動器の働き 骨・筋 5. 関節運動のメカニズム 6. 機能解剖のまとめ 7. 運動器の正常と異常 ①痛み 8. 運動器の正常と異常 ②動き	9. 運動器の正常と異常 ③形態 10. 整形外科の診察 11. 整形外科の検査 12. 整形外科の治療 13. 外傷総論 ①病態と診断 14. 外傷総論 ②治療法 15. 総合演習
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

既に学んだ解剖学を適宜復習して授業に臨むのが望ましい。各回の復習をしっかりと行うこと。
準備ならびに復習に週3時間程度を見込む。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験施行後に履修獲得不十分な場合、個別レポートにより整形外科 I の範囲について知識の固定化を図る。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士もしくは柔道整復師となるために必要な整形外科の知識を十分に獲得していること。

7. 成績評価の方法・基準

多肢選択式/記述式のテストもしくはレポート（70%）と平常点（30%）を加味した総合評価を行う。
100点満点で60点以上を合格とする。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版救急救命士標準テキスト
適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

授業には能動的に取り組み、討論や質問に際しては積極的に発言すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、病院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

整形外科Ⅱ		講義	客員教授 可知 芳則
科目カテゴリ	救急救命士コースの専門分野科目 柔道整復師コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321202 13361205

1. 授業のねらい・概要

整形外科Ⅰで学んだ内容を発展させ、代表的な疾患の病態や診断に至る過程、治療法を理解することで最適な対処方法を導くためのプロセスを学び、より普遍的に応用できる考え方を身につけていく。

2. 授業の進め方

9月30日、10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日、12月23日、1月13日に授業を行う。

3. 授業計画

1. 整形外科の重要疾患	9. 骨盤骨折・脊椎外傷
2. 腰背部痛の診かた	10. スポーツ外傷 1 フィールドでの緊急事態
3. 腰椎椎間板ヘルニア	11. スポーツ外傷 2 代表的整形外科疾患
4. 腰部脊柱管狭窄症	12. 変形性関節症
5. 骨粗鬆症性骨折 1 総論	13. 関節リウマチ・代謝性疾患
6. 骨粗鬆症性骨折 2 各論	14. 整形外科手術の実際
7. 骨粗鬆症の病態と治療	15. 総合演習
8. 小児の骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

既に学んだ解剖学を適宜復習して授業に臨むのが望ましい。各回の復習をしっかりと行うこと。
準備ならびに復習に週3時間程度を見込む。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験施行後に履修獲得不十分な場合、個別レポートにより整形外科Ⅱの範囲について知識の固定化を図る。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士または柔道整復師となるために必要な整形外科の知識を十分に獲得していること。

7. 成績評価の方法・基準

多肢選択式/記述式のテストもしくはレポート（70%）と平常点（30%）を加味した総合評価を行う。
100点満点で60点以上を合格とする。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版救急救命士標準テキスト
適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

授業には能動的に取り組み、討論や質問に際しては積極的に発言すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、病院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

病理学概論		講義	教授 澁谷 正史 教授 西川 彰
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12321301

1. 授業のねらい・概要

病理学では、病気に陥った身体にどのような変化が生じているのかを明らかにし、それにより病気の原因を究明することを学びの基盤としている。さらに、病気の診断や治療、予防にも関わることから臨床医学や予防医学の根幹ともなる学問である。この授業では、疾病の基本（分類、症状、経過、予後など）と病因を学ぶことから始め、その後は、細胞傷害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常（アレルギー）、腫瘍、先天性異常について順次学習を進めていく。また、单元ごとに該当する演習問題にも取り組むことで、将来の資格試験合格に向けた知識の定着も図る。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、テキストに記載されている病理学的所見などのスケッチも加えた上で、「病理学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス、病理学とは	9. 進行性病変②（創傷治癒と異物処理、移植）
2. 疾病の一般（疾病の意義と分類、経過、予後、転帰）	10. 免疫異常、アレルギー
3. 病因（内因と外因）	11. 腫瘍①（腫瘍の概念）
4. 細胞傷害①（退行性病変）	12. 腫瘍②（腫瘍の分類）
5. 細胞傷害②（代謝障害）	13. 先天性異常
6. 循環障害①（血液の循環障害）	14. 運動器の病理
7. 循環障害②（リンパ液の循環障害、脱水）	15. まとめ
8. 進行性病変①（肥大と過形成、再生、化生）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「病理学レポート」を作成した上で、それを基に单元別の演習問題にも取り組み毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートおよび演習問題については添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、病理学用語をただ暗記するだけでなく、病気の原因とそれによる身体の変化との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポートおよび演習問題）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『病理学概論 第3版』、医歯薬出版、2012年
その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

内科学 I		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321302 12351202

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。診察の基本を学び、柔道整復師や救急救命士が臨床の現場で注意を払わなければならない症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 診察概論、医療面接	9. 生命徴候（体温、血圧、脈拍、呼吸）
2. 視診①（体格・体型、体位・姿勢、栄養・精神状態）	10. 感覚検査（表在感覚、深部感覚、複合感覚など）
3. 視診②（異常運動、歩行、皮膚）	11. 反射検査①（種類、意義、表在反射、腱反射）
4. 視診③（頭部・顔面、頸部、胸部、腹部）	12. 反射検査②（病的反射、クロウヌス、自律神経反射）
5. 視診④（背部・腰部、四肢）	13. 臨床症状①（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹など）
6. 打診、聴診（肺・心臓）	14. 臨床症状②（関節痛、浮腫、肥満、やせ）
7. 聴診（腹部）、触診（皮膚・皮下組織、筋肉）	15. 検査法（生命徴候、生理機能、検体、運動機能）
8. 触診（骨・関節、胸部、腹部、リンパ節）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には 90 分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師、救急救命士として必要な一般臨床医学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：全国柔道整復学校協会監修、一般臨床医学 改訂第3版、医歯薬出版株式会社、2013年

参考文献：明治東洋医学院編集委員会編、2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用、医学の日本社、2023年

小関一英編、2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集、晴れ書房、2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりである。

内科学Ⅱ		講義	教授 柳田 浩義	
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング		12321302 12351203

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。診察の基本を学び、柔道整復師や救急救命士が臨床の現場で注意を払わなければならない症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 呼吸器疾患（総論、各疾患）	9. 腎・尿路疾患①（総論、腎不全）
2. 循環器疾患（総論、各疾患）	10. 腎・尿路疾患②（糸球体疾患、間質の疾患など）
3. 消化器疾患①（総論、消化管疾患）	11. 神経疾患①（総論）
4. 消化器疾患②（肝胆膵疾患、腹膜疾患）	12. 神経疾患②（各疾患）
5. 代謝疾患①（総論、糖尿病）	13. 感染症①（総論）
6. 代謝疾患②（脂質異常症、肥満症など）	14. 感染症②（各疾患）
7. 内分泌疾患（総論、各疾患）	15. リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患
8. 血液・造血器疾患（総論、各疾患）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師、救急救命士として必要な一般臨床医学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：全国柔道整復学校協会監修，一般臨床医学 改訂第3版，医歯薬出版株式会社，2013年

参考文献：明治東洋医学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年

小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりである。

リハビリテーション医学		講義	教授 澁谷 正史 講師 山本 雅貴
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12321304

1. 授業のねらい・概要

患者の病態を正しく理解・管理するために、リハビリテーションに関わる検査・測定・治療・予後に必要な基本的知識を修得することを目的とする。また、医療現場における他職種との連携の重要性を踏まえ、柔道整復師が担うリハビリテーションの役割について理解を深める。

2. 授業の進め方

リハビリテーション医学改訂4版の内容に沿った講義形式を基本とする。毎回の講義ではPowerPointを用いたスライドによる授業を行う。

3. 授業計画

1. リハビリテーションの理念	9. 高齢者のリハビリテーション①（フレイル，認知症）
2. リハビリテーションの対象と障害者の実態	10. 高齢者のリハビリテーション②（パーキンソン病、脳卒中）
3. 障害の階層とアプローチ（ICD，ICIDH，ICF）	11. 運動器のリハビリテーション①（骨折の治療）
4. リハビリテーション評価学①（機能解剖，身体所見）	12. 運動器のリハビリテーション②（頸肩腕症候群）
5. リハビリテーション評価学②（画像診断，小児運動発達）	13. 運動器のリハビリテーション③（腰痛症）
6. リハビリテーション障害学	14. 運動器のリハビリテーション④（捻挫およびアキレス腱断裂）
7. リハビリテーション治療学	15. 障害者スポーツと前期のまとめ
8. リハビリテーション医学の関連職種と治療技術	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容をテキストや配布資料を用いて復習し、疑問点などを明確にしておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントを解説する。

6. 授業における学修の到達目標

- ①リハビリテーション医学の用語を覚え、使用できるようになる。
- ②リハビリテーション医学の対象となる各疾患の評価，診断法について学習し，実施できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

リハビリテーション医学 改訂第4版，全校柔道整復学校協会監修，南江堂

9. 受講上の留意事項

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外科学概論		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321305 13351201

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。本授業では、外科的に取り扱う代表的な疾患を学び、将来、臨床の現場で活躍するための基礎力をつける。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 損傷・創傷・熱傷	9. 胸壁・呼吸器疾患
2. 炎症と外科感染・腫瘍	10. 心臓・脈管疾患①（心臓疾患）
3. ショック・輸血と輸液	11. 心臓・脈管疾患②（脈管疾患）
4. 消毒と滅菌・手術・麻酔	12. 腹部外科疾患①（主な症状と検査）
5. 移植と免疫・出血と止血・心肺蘇生法	13. 腹部外科疾患②（食道・胃十二指腸・大腸疾患）
6. 脳神経外科疾患①（脳・神経疾患の主要徴候）	14. 腹部外科疾患③（肝・胆・膵疾患）
7. 脳神経外科疾患②（主な脳・神経疾患）	15. 腹部外科疾患④（その他の腹部外科疾患）
8. 甲状腺・頸部・乳腺疾患	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各外科疾患の病態、症状、診断法、外科的処置を理解し説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：炭山嘉伸編，全国柔道整復学校協会監修，外科学概論 改訂第4版，南江堂，2012年
参考文献：明治東洋医学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年
適宜指定する教材
テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

保健医療福祉論		講義	非常勤講師 一戸 真子	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	11322117 12331101 13332202	

1. 授業のねらい・概要

保健、医療、福祉・介護に関連した関係法規と制度の基礎知識や理論について講義する。保健・医療・福祉・介護各サービスの内容や技術について学ぶことは大切であるが、これらのサービスは、法律によって根拠づけられ、規制され、一定のルールのもとで役割分担されているということの重要さと必要性を学生が理解できるようになることを本講義の目的とする。さらに人々の QOL の向上には、保健・医療・福祉・介護の連携が大変重要であり、相互に関連性があることについても理解を深められるよう講義する。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とする。振り返りシートを活用して、理解を深められるよう工夫する。

3. 授業計画

1. 保健・医療・福祉・介護各サービスの特徴	9. 健康増進法、予防の重要性
2. 憲法第 25 条と社会保障、医師法・各医療従事者法	10. 生活習慣病とがん対策
3. 医業と治療行為、医業類似行為	11. 患者の QOL とセルフケア
4. 医療法、健康保険法、介護保険法	12. 職種間の連携・チーム医療の重要性
5. 後期高齢者医療制度、障害者総合支援法	13. 障害者対策、難病対策
6. 診療報酬制度・介護報酬制度、公的扶助	14. 地域包括ケアシステム
7. 医療機能、病床機能、介護機能、在宅	15. 利用者中心の保健・医療・福祉・介護システムの構築と連携
8. サービス利用者の人権、自己決定・尊厳	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回の授業テーマに関するテキストを読み込んでおくことと、各授業後に指示する課題についてまとめておくこと。これらの予習・復習の時間には 2 時間以上必要とする。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後、解答などを掲示板に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

1. 保健・医療・福祉・介護各サービスの特徴と制度の果たす役割について説明できる。
2. 保健、医療、福祉各関連法規および医療従事者各法について説明できる。
3. 保健医療福祉制度のあり方について説明でき、保健・医療・福祉・介護の連携の重要性について説明できる。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（60%）、レポート（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、『保健医療福祉制度政策論』（2026）日本看護協会出版会（ISBN9784818029712）を使用するので、毎回の課題に必要である。その他必要な参考書等は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

保健・医療・福祉・介護に関する各法制度等を知っておくことは、今後患者や患者家族経験、要介護者や介護者を経験する際にも役立つことが多いので、関心を持って積極的に受講して欲しい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、医療施設や福祉施設評価に関する実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道整復の理念と歴史		講義	講師 小向 啓介	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目		科目ナンバリング	12331102

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は国民医療の一端として、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承されてきた。柔道整復術の現代的意義について「患者からの信頼と尊敬を得るような人間性の向上と高度の医学的知識の修得が必須である。」と言うように、崇高な理念について学ぶことで柔道整復の進歩発展につながるものと考えられる。

また、医学史は現代医学の礎となり今後も学ぶべき点が多い学問領域だと考える。また、柔道整復師は時代に遅れないよう常に研究していくことが重要である。これらのことから授業のねらいとして、先人たちが積極的に取り組み築き上げた歴史と柔道整復の進歩発展のつながり学んで理解することを挙げる。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、過去の映像や記録から具体的な出来事を取り上げて、パワーポイントで説明も行う。また、理解の定着を図るため、講義の途中でグループワークの実施やレポートを作成する。

3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道整復師の仕事について）	8. 業務禁止と施術制限、権能と施術目的、医接連携
2. 柔道整復術および柔道整復師の沿革① （体系化・試験の施行・公認）	9. 療養費と受領委任払い制度、心得、倫理綱領
3. 柔道整復術および柔道整復師の沿革② （学校教育・法の成立・指導要領の制定）	10. ここまでの授業振り返り、小テスト
4. 柔道整復術および柔道整復師の沿革③ （法の大改正・授業時間の変遷）	11. 現代の柔道整復師について （現代の柔道整復師の業務について）
5. 柔道整復術および柔道整復師の沿革④ （柔道整復師と柔道）、授業振り返り、小テスト	12. 柔道整復師の理念について① （柔道整復師の理念と柔道整復学総論について）
6. 業務範囲と施術限界、X線と附帯決議	13. 柔道整復師の理念について② （柔道整復師の理念と柔道整復学各論について）
7. 業務範囲 （条文、指導要領、柔道整復術）	14. 柔道整復師の理念について （柔道整復師の理念と柔道整復学各論および解剖学について）
	15. 授業の総復習、小テスト

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に教科書を読み内容を把握する。前回の授業内容を復習しておく。復習には教科書や授業ノートなどを参考にする。なお、これらの準備学修には、1時間程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際、重要箇所について解説を行う。訂正箇所があった場合は後日、改めて提出日を設定する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復の理念と歴史について十分に理解し、最終的に柔道整復術の現代的意義について自らの考えをまとめてレポートを作成すること。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（20%）およびレポート（40%）、小テスト（40%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

- ・柔道整復学・理論編改訂7 版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ・テキスト，参考文献，資料等は必要に応じて配布する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては，難しい人名漢字，難読漢字などが多く出てくるので，辞書や電子辞書を持込可とする。柔道整復師として患者さんに口頭説明を行う予行演習の一環として、グループワークでは積極的な発言・聞き取りやメモ取りに努める。その他，疑問や不明な点については，遠慮なく質問してください。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は柔道整復師免許，柔道整復師専任教員資格を有し，整形外科勤務，整骨院院長としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

柔道実技		実習	講師 小向 啓介	
科目カテゴリ	柔道整備師コースの専門基礎科目 教職科目		科目ナンバリング	12331103 12531105

1. 授業のねらい・概要

大学における「スポーツ」はスポーツの実習とスポーツ科学の理論の学習を通して、自己のライフステージや心身の状態（健康、体力、運動能力）に適したスポーツを生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成できる能力を目的としている。

柔道は日本を発祥とするオリンピック競技種目であり、健康と体力の維持、増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に着けることができる競技である。本講義では学科の特性を踏まえ、その精神、体力、歴史、礼法、基本動作、受身、投技、固技、乱取りなどを通して、中学・高等学校保健体育教育職員、柔道整備師になる上で必要な技能の習得をねらいとする。

2. 授業の進め方

授業の初回に、柔道で発生する外傷について詳細に説明を行い、安全に柔道を行う意識を持ってもらう。初回以降の授業の流れ・内容として、柔道着の着方と礼法の指導／柔道修行における受身の重要性の理解と実践：後方受身、側方受身、前方受身の学習～前方回転受身の学習／受身の復習ならびに受身の応用練習、足技、腰技、手技の学習と応用練習／固技：抑え技の学習と応用練習／などこれらを行う。尚、毎回の授業時に礼法の確認、準備運動、各種受身を必ず行い柔道精神の理解と外傷発生防止に努める。

3. 授業計画

1. ガイダンス（柔道の歴史、礼節、発生する外傷）	9. 固技の基本動作
2. 柔道着の着用、礼法、受身（後受身、横受身）	10. 固技（袈裟固・肩固・横四方固）、投技復習
3. 基本動作（受身：後受身・横受身・前回受身）、固技（袈裟固）	11. 受身、約束乱取
4. 基本動作（受身：前受身・前回受身）、固技（袈裟固、肩固）	12. 受身、約束乱取（固技あり）
5. 受身、基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し方）	13. 礼法、受身、投技、固技の復習、約束乱取
6. 受身、投技（背負投・体落・払腰）	14. 礼法、受身のテスト、固技、投技の総復習
7. 受身、投技（小内刈・大内刈・大外刈・出足払）	15. 投技・固技のテスト、解説および再試験
8. 投げ技の応用練習～立技の約束乱取	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習として、「体育学習における武道」のうち、特にp7～26を読み、柔道指導について理解をしておくこと。実技前はストレッチなどの準備運動を全身に対して十分に行い、身体を柔軟に動かせるように準備をすること。

「体育学習における武道（文部科学省）」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/04/26/1333611_03_1.pdf

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各段階で習得したことを実践させて確認する。その都度、解説をして再練習をさせる。試験は受身（第13回）、基本動作・投技・固技（第14回）に分けて行う。試験後は適宜フィードバックを行う。再試験は第15回に行う。評価にあたってはレポート課題を提示する（第12回が、本レポート課題は「柔道の授業を安全に行うための具体的な取り組み」と題して作成・提出させる。レポート課題提出後に採点を行い、授業時に解説を行う（第15回）。

6. 授業における学修の到達目標

健康と体力の維持、増進のための身体や運動に基礎的な理論と実践方法を身に着けること。また、柔道精神、体力、歴史、礼法、基本動作、受身、立技、固技などの技能の習得を到達目標とする。さらに安全に対する意識を学び実践する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（50%）、および最終テストの結果（下記①②③）によって評価する。

- ① 身体の安全を守れる体力・技術・知識を身につけているか（受身の試験 15%）
- ② 柔道の基礎的知識を理解して、その基本的技術を習得しているか（投技の試験 15%）
- ③ 講義内に行われる応用練習について理解しているか（20%）

8. テキスト・参考文献

講義内で参考資料を配布。

9. 受講上の留意事項

互いの負傷発生を防ぐため以下の項目を厳守すること。

- ・手足の爪は短く切っておくこと。
- ・ネイルは付けないこと。ネイルを付けていたら外すこと。
- ・装飾品（指輪、ネックレス、ピアス、ブレスレット、ミサンガなど）は授業前に必ず外しておくこと。
- ・髪の毛の長い学生は髪を結び襟につかないようにすること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は講道館柔道二段を有し、柔道指導歴などの実務経験を活かして実技指導を行う。て実技指導を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

医療倫理学		講義	教授 柳田 浩義	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救命救急士コースの専門基礎分野科目	科目ナンバリング	12331104 13332101	

1. 授業のねらい・概要

医療従事者として身に着けるべき医療倫理の原理・原則を理解すること，さらに医療倫理学がどのように医療現場で実践されるかについて，学修することを目的とした授業である。

2. 授業の進め方

テキストの内容を，適宜，スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜，論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 生命倫理学と医療倫理学の原理	9. 遺伝子・ゲノム医療・再生医療
2. 説明と同意	10. 感染症対策
3. 研究倫理	11. ケーススタディ①（他者危害の防止）
4. 人工妊娠中絶と出生前診断	12. ケーススタディ②（自己危害の防止）
5. 新生児医療における生命倫理	13. ケーススタディ③（尊厳死）
6. 脳死と臓器移植	14. ケーススタディ④（障害児の出生）
7. 終末期医療・安楽死と尊厳死	15. ケーススタディ⑤（医療資源化の是非）
8. 救急医療における倫理	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を，テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに，授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお，これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回，過去に実施された国家試験などの問題を実践，解答させる。問題解答の際，また定期試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 倫理と道徳の相違を理解する。倫理に関して各自の考えをしっかりと構築する。
- 2) 医療倫理の実地において最も重要なコミュニケーションについての理解を深める。
- 3) 医療倫理が柔道整復師，救急救命士の現場でどのように生かされるかについて理解する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%），定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：伏木信次編，生命倫理と医療倫理 第4版，金芳堂，2020年

参考文献：明治東洋医学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年

小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置		講義	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの選択必修科目 教職科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	11321103 11531111 12332101 12531111

1. 授業のねらい・概要

救急法・応急処置法および学校安全の基礎を学び、教育現場における安全管理や危機管理に関する知識および技術について学習を行う。

2. 授業の進め方

救急法に関しては、AHAガイドラインに沿った日本国内の心肺蘇生法ガイドラインについての学習および実習を行う。応急処置法は教育現場で起こりうる各種トラブルに関する処置方法について具体的事例を通して学んでいく。また、リスクアセスメントおよびリスクマネージメントの考え方を学び、教育現場における危機管理体制の事例について学習を進めていく。

3. 授業計画

1. 救急法および応急処置法の概念	9. ショックおよび意識障害の種類と対処方法について
2. 学校安全の構成および構成員、リスクアセスメントとリスクマネージメント	10. 水の事故とその予防方について
3. 保健統計およびマスコミ報道からみる不慮の事故と安全管理	11. 熱中症とその予防方について
4. 救急法に必要な解剖学、生理学、生化学および生物学的知識 について	12. 野外活動におけるリスクおよび救急法、危険な動植物に関する基礎知識
5. AHAガイドラインと日本国内の心肺蘇生法ガイドラインについて	13. 災害時の救急法・応急処置法、傷病者と救護者の安全確保
6. 一次救命処置についての理論学習（AED の使用方法含む）	14. 学校内での安全体制の整備と今後の課題
7. 一次救命処置の実際（AED の使用を含む）	15. まとめ
8. スポーツ外傷と応急処置法および止血法について	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業の最後に次回のテーマに関連した課題を出すので、受講までに準備を行うこと。また、ノート提出を行い学習状況の確認を行うので、毎回の授業について復習を行いながら、ノートを整理しておくこと。(2時間程度を必要とする内容)

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後もしくはミニレポート提出後に、解答のポイント、出題意図等についての説明を行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急法の基本理念を理解し、救急法や応急処置法の基本的技術の理解と習得を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への貢献度・積極性、ミニレポートなどの平常点：20％、レポート・試験等：80％

8. テキスト・参考文献

テキスト：緊急・応急処置 Q & A

参考文献：衛藤 隆他 『最新Q & A 教師のための救急百科』 大修館書店

9. 受講上の留意事項

理解度確認のためにミニレポートの作成もしくはミニテストを行うことがある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公衆衛生学 (公衆衛生学Ⅰ)		講義	教授 田中 基晴	
科目カテゴリ	スポーツマネジメントコース、スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの専門基礎科目、教職科目 教職科目		科目ナンバリング	11322204 12332201 11531203

1. 授業のねらい・概要

日本では少子高齢化が進み、世界全体では食糧や環境問題が深刻化している。これらが私たちの健康や生活に大きな影響を与えていることは良く知られている。この事態に対処するには、社会を担う一人ひとりが取り組むことが必要であり、人と社会との接点を知ることが重要である。すなわち、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略、戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。本講座では、公衆衛生の基本的な知識、考え方、その役割、重要性を学び、理解することを目的とする。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

3. 授業計画

1. 健康の科学としての公衆衛生学	9. 環境の衛生
2. 人口の動向・世界の人口、日本の人口	10. 環境汚染と公害
3. 妊娠・出産、胎児期の保健	11. 感染症：微生物による病気
4. 新生児・乳幼児期の保健	12. 食物と健康
5. 青少年の保健	13. 職業生活と健康
6. 成人期の保健	14. 保健・医療行政
7. 老年期の保健と死の問題	15. まとめ
8. 心の健康と心身障害	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習、理解し、授業前に必ず一度は教科書の予定範囲を予習（1時間程度）として読んで、わからない点を把握しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼りだす。
- 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 公衆衛生の概念、感染症、予防医学を理解する。
- 日本及び世界の人口動向について理解する。
- 人の一生の前半期である妊娠、出産と、胎児、新生児、乳幼児、青少年の各期の健康と母子保健、学校保健について学び、理解する。
- 人の健康の維持増進、疾病予防を実践するために関わる環境因子を把握し、環境衛生を学ぶ。

7. 成績評価の方法・基準

1) 基準

公衆衛生学について基礎的な理解ができているかを評価対象とする。

2) 方法

- a) 受講態度（出席，遅刻，早退，スマホ閲覧，など）(30 %)。(スマホ閲覧を禁止しています)
- b) 筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

教科書： 学生のための現代公衆衛生 【第8版】 野中浩一 編 南山堂 2022 年

9. 受講上の留意事項

あらかじめ，授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習は，その日のうちに行うこと。また不明な点，理解できない点があれば，遠慮しないで質問すること。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。本授業は，以下の実務経験を生かして実施する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急法実習

2026年度

休講

公衆衛生学Ⅱ		講義	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目	科目ナンバリング	12331201 12531212

1. 授業のねらい・概要

公衆衛生学は予防医学に位置づけられているが、予防のみならず、検診、リハビリテーションといった幅広い分野に亘って網羅する学問である。柔道整復師はこの中でも主にリハビリテーションに重きを置く重要な仕事であり、公衆衛生学を知することは将来、柔道整復師として活躍する上で必要である。また、国家試験の出題科目でもある。よって、授業では国家試験を念頭に置き、重要事項を中心に解説する。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書を中心にして講義を進める。必要に応じて参考資料のプリントを配布する。

3. 授業計画

1. 公衆衛生学の歴史及び健康の概念	9. 老人保健
2. 感染症と予防	10. 精神保健
3. 食物と健康	11. 地域保健
4. 環境保健	12. 国際保健
5. 母子保健	13. 衛生行政と保健医療の制度
6. 学校保健・青少年の保健	14. 疫学
7. 産業保健	15. まとめ
8. 成人保健	

4. 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回の講義内容を復習，理解し，前回の講義内容を復習，理解し，授業前に必ず一度は教科書の予定範囲を予習（1時間程度）として読んで，わからない点を把握しておくこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼り出す。
- 解説は，不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学習の到達目標

- 公衆衛生の概念，感染症，予防医学を理解する。
- 人の一生の前半期である妊娠，出産と，胎児，新生児，乳幼児，青少年，成人期，老年期，各期の健康と母子保健，学校保健について学び，理解する。
- 人の健康の維持増進，疾病予防を実践するために関わる環境因子を把握し，環境衛生を学ぶ。
- 疫学の歴史，概念について理解する。曝露と疾病，疾病頻度の指標を理解する。
- 各種の疫学研究方法を学び，理解する。

7. 成績評価の方法・基準

1) 基準

公衆衛生学について広く深い理解に達しているかを評価対象とする。

2) 方法

- 受講態度（出欠，遅刻，早退，スマホ閲覧，など）（30%）。（スマホ閲覧を禁止しています）
- 筆記試験（小テストを含む）（70%）。

8. テキスト・参考文献

教科書： 衛生学・公衆衛生学 [改訂 第6版] 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修, 鈴木庄亮, 小川正行ら著 南江堂 2021年 (柔道整復師コース用)

学生のための現代公衆衛生学 改訂 第7版] 野中浩一 編著, 荻田香苗, 内田有子, 助友裕子 著 南山堂 2020年

9. 受講上の留意事項

あらかじめ、授業前に必ず一度は予定範囲を読んでおくこと。復習は、その日のうちに行うこと。また不明な点、理解できない点があれば遠慮しないで質問すること。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。本授業は製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

学校保健論		講義	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの専門基礎科目 教職科目 救急救命士コースの専門基礎分野科 目 教職科目	科目ナンバリング	11322206 11531204 12332203 12531207 13332201 13531204

1. 授業のねらい・概要

学校教育目標の具現化としての学校保健の位置づけを理解し、学校保健の実践が児童生徒の発達にどのような役割を担っているかを学ぶ。学校保健の意義と目的、行政と学校保健、法規に基づく学校保健の内容と組織、保健主事や養護教諭等の関係職員の役割などについて具体的な実践例をとおして学習する。

2. 授業の進め方

主に講義形式で授業を進めます。授業の始めに前回の振り返りを行った後に、今回の授業概要について説明を行う。授業内容によっては、調べ学習や、題学習等の形式でも授業を行う。授業の最後に次回の内容と準備についての説明を行う。

3. 授業計画

1. 学校保健の理念と目的、学校保健の構成	9. 学校保健活動の実際(小・中学校・高校・養護学校)
2. 学校保健計画と評価、学校保健と関係職員	10. 学校環境衛生とその評価および改善
3. 子どもの発育・発達と学校保健	11. 学校環境衛生の新たな課題
4. 学校における健康情報とその管理および利用	12. 学校災害と学校安全、セーフティープロモーション
5. 児童生徒の健康障害および伝染病の予防	13. 救急法と緊急時の体制
6. 健康障害のある児童生徒と学校生活	14. これからの教育環境と学校保健、海外の事例
7. 精神保健とがん教育	15. まとめ
8. 保健教育とヘルスプロモーション、組織活動	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業の最後に次回のテーマに関連した課題を出すので、受講までに準備を行うこと。また、ノート提出を行い学習状況の確認を行うので、毎回の授業内容について復習を行いながら、ノートを整理しておくこと。(2時間程度を必要とする内容)

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後もしくはミニレポート提出後に、解答のポイント、出題意図等についての説明を行う。

6. 授業における学修の到達目標

学校保健・学校安全の目的・目標・活動の全体構成について理解し、各項目についての内容と実施について理解することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への貢献度・積極性、ミニレポートなどの平常点：20％、レポート・試験等 80％

8. テキスト・参考文献

教科書：①学校保健ハンドブック 教員養成系大学保健協議会(編) ぎょうせい
 ②学校保健マニュアル 衛藤隆也 南山堂

参考文献：授業の中で適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

授業後にミニレポートもしくはミニテストを行うことがあるので、毎回の授業のノートを作成して、予習や復習に活用すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

関係法規		講義	非常勤講師 西川 晃子
科目カテゴリ	柔道整復師コースの専門基礎科目	科目ナンバリング	12331401

1. 授業のねらい・概要

人が社会の中で生きていくためには、法律に従わないといけない。人間の生命に関わることであれば、さらに注意しなければならない。「法律を学ぶ」とは、物事の判断基準であり、柔道整復師の活動が他人に対して不利益にならぬようにするためのものである。その為には、内容の理解が必要不可欠となる。

本授業では法の意義や体系、柔道整復師免許、業務、施術所、他の医療従事者など様々な法律について学習し、職務に就いた際、活動を正しく円滑に行えることを目的に行う。

2. 授業の進め方

授業では配布資料とスライドを活用する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 総則	10. 医療従事者の資格法（医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法など）
2. 免許	11. 医療従事者の資格法（理学療法士および作業療法士法、義肢装具士法、薬剤師法など）
3. 柔道整復師国家試験	12. 医療法
4. 業務	13. 医療法施行令
5. 施術所	14. 社会福祉関係法規
6. 雑則	15. 社会保険関係法規
7. 罰則	
8. 指定登録機関及び指定試験期間	
9. 附則	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に配布した資料に目を通し、わからない単語があれば事前に調べておくこと（およそ 30 分間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の正答と問題の要点を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

「関係法規」の必要性を確認する。

法律の意味を理解する。

柔道整復師に関する法律ならびに国家試験に対応した知識を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験（期末試験）の結果のみ（100%）により評価する。

8. テキスト・参考文献

全国柔道整復学校協会 監修、『関係法規 2026 年版』、医歯薬出版、2026 年

その他、授業内容に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

授業開始 5 分前には着席しておくこと。

講義回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

運動器疾患と柔道整復術		講義	准教授 伊藤 新
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12341301

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師の業務は、骨折や脱臼、捻挫などの外傷を治療することである。しかしながら、柔道整復師の治療を求めている患者は、外傷性だけでなく非外傷性の疾患も含まれている。また、外傷性の疾患の中には柔道整復師が対応できないものが含まれている。したがって、これらを適切に評価するには、それぞれの疾患の病態をしっかりと理解することや、類似している疾患の特徴などを把握する必要がある。また治療法に対しては柔道整復師が古来より行ってきた伝統的な方法などを中心に説明を行う。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて動画などを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 意識障害を伴う損傷
2. 柔道整復術の適応疾患の特徴と病態	10. 脊髄症状のある損傷
3. 外傷に類似した症状を示す疾患	11. 呼吸運動障害を伴う損傷
4. 血流障害を伴う損傷	12. 内臓損傷を伴う損傷と高エネルギー損傷
5. 末梢神経損傷を伴う損傷	13. 上肢外傷の診察・治療法
6. 脱臼骨折	14. 下肢外傷の診察・治療法
7. 外出血を伴う損傷	15. 体幹外傷の診察・治療法
8. 病的骨折と脱臼	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100％）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

施術の適応と医用画像の理解 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
 柔道整復学・実技編改訂2版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
 毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子的着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。